

福山駅前アクション会議（第4回）

日時：2019年12月4日（水）18時30分

場所：AREA INN FUSHIMICHO

議論内容（概要）

〈開会挨拶〉

【福山駅前再生推進部長 池田】

- ・今日の会議の内容をデザイン会議，デザイン計画にも盛り込んでいきたい。
- ・リノベーションまちづくりがここ AREA INN FUSHIMICHO で今年の2月に行われた。現在までに20件近いお店がリノベーションしている。
- ・今日の議論を今後のまちづくりの参考にしたい。

【ファシリテーター 清水義次さん】

- ・伏見町に新しいコンテンツがどんどん打ち込まれている。この流れを駅周辺全域にどんなふうにつなげていくか，コンテンツが非常に重要になる。コンテンツには担い手が必要だ。面白い人間の持つ情報発信力が福山駅前を変える一番の原動力。
- ・お城の中に新幹線が停まる駅がある福山のまちは珍しい。もっとそれをはっきり表現したらどうだろうと，最初の頃にお話した。
- ・福山は海が近い。島々がいいのに勿体ない。山側は繊維産業の集積があり多様な産業がそろっている。あらゆる自然の要素がフィールドとして残っている。ツーリズムの大産業化が図れるまちだ。資源があまりに多くあるのに勿体ない。
- ・AREA INN FUSHIMICHO にはたくさんの方が集うようになった。ディープラインという名称で発信している。玄関口の伏見町を中心にせとうちディープラインを巡るのが，これからの福山ツーリズム産業になり得るのではないか。新幹線を降りたら自転車で鞆の浦辺りまで行くというツーリズムが面白いという仮説で情報発信を始めている。
- ・福山のまちでの新しい観光や暮らし方，働き方の議論を期待する。

〈ゲストトーク〉

【株式会社 on the trip 代表取締役 成瀬勇輝さん】

- ・バンをオフィスにして日本各地を回っている。
- ・ボストンに留学後，世界を転々とした。同世代に向けてのノマドプロジェクトとして，いろんな人にインタビューしてメディアに発信していた。旅をすることによって五感を刺激する，それがアイデアや会社をどうするといったことを手助けしてくれる。帰国後，TABILABO というソーシャルメディアを立ち上げた。世界を回っているときに思いついたアイデアで on the trip の事業を考えた。
- ・on the trip の事業について。美術館のオーディオガイドのような，旅先で自分のスマホ

がオーディオガイドになるサービス。各地のお寺や神社、また、まちそのものを美術館に見立ててガイドを作っている。音声メインだが地図情報とも連携して写真・画像・文章も使用しており、日本語、英語、簡体語、繁体語の4言語でリリースしている。

- ガイドを作るためにバンで各地を移動している。なぜバンか。スマホでガイドを聞きながら映画や小説のような体験ができることを大事にしている。あれもこれもではなく、テーマを1つに絞る。貴船神社なら「水」をテーマに水にまつわる情報を聞きながら神社を巡る。エモーショナルな体験を作っていくことを大事にしている。それには自分たちが実際に体験することが大事なのでバンで移動して制作している。
- 特に欧米などでは今、オーディオガイドを使用する人が増えている。体験を重視する傾向にある。そこに来たらには何かを学びたい。今までは人が案内していたが観光客が増えると対応が難しくなる。それでQRコードを置いておけば、それにスマホをかざせばガイドが体験できるということをやっている。またホテルと提携してガイドを作っている。コンシェルジュの代わりというイメージだ。まちに滞在するという感覚を作っていく。ホテルを起点として一緒にまち歩きが出来るようなガイドを作っている。
- 京都市ではお寺などのガイドのほか、京ナビ観光案内所でオーディオガイドを案内して、そこからまち歩きをスタートする取り組みもやっている。
- (実際のQRコードを使つての説明。割愛)
- オーディオガイドを作るだけではなく、自治体やお寺、神社と体験を企画している。例えば、三千院では3年後の自分に手紙を書く体験、退蔵院での飴玉で禅体験などを企画した。
- ビジネスモデルについての説明。経営が難しいお寺や美術館が多い。その人たちは拝観者、入館者を増やしたいという思いを持っている。観光客を増やすのも大事だが、一人当たりの単価を上げることをやっていきたいと思っている。妖怪美術館で音声ガイドを利用して体験を作り替えたなら、入館料を値上げしたにもかかわらず、外国人観光客を呼び込み、入館者数が3.5倍になった。売上は1.1倍になった。物販、カフェの売り上げが増加した。物語を聞くことでグッズが売れるようになった。
- 金額で行く場所を決めるのではなく、そこにしかない体験を求めてくる。付加価値をどうやって作っていくかが大事だ。
- 日本は物価が高いというが、サグラダファミリアは入館料3,000円、一方清水寺は400円。20年以上拝観料を変えることができていない。付加価値を付けることで設備投資をやって体験価値を上げていかないと、廃れていくところが多くなると思う。一人当たりの単価を上げていく、それによって観光客にとっては付加価値が生まれるということをやっている。
- 体験がなぜ大事か。「旅する哲学」という著書によれば、21世紀の旅人は不幸だといっている。現代はマチュピチュに行こうと思ったら、その画像がネットにあふれている。事前に見た画像を確認しに現地に行っているような感じだ。自分たちの絶景はもしかしたら、景色ではなく感受性を動かすことではないか。マチュピチュの景色を楽しむことは薄

れているかもしれないが、そこには目に見えない200年の物語が積み上げられている。その場所で物語を聞くことによって、感受性が動かされる、それが旅の絶景になっていく。これからの旅には感受性を動かすことが大事になってくる。そこに根付いている物語を聞くことで体験が膨らんでいくことが、これからの観光を考える上で大事なことだと思う。

- ・今後、コンテンツがよりシームレスに人々に伝わっていくようになる。映像のARより音のARが普及していくのではないか。コンテンツがどんどんアップデートされていくが、大事なのはその場所でこそ体験できることを考えていくことで、それがその土地の魅力になり、わざわざ行く理由になる。

〈実践者による事例発表〉

【福山シティクラブ 小林さん】

- ・リノベーションというつながりから駅前でスポーツジムを開業することになった。
- ・福山の課題、「人口減」を何とかしたい。福山の健康リテラシーを上げたい。フューレックさんはサウナで健康を売っている。スポーツジムというコンテンツとも相性がいいと思ったのでコラボレーションしようと思った。
- ・ターゲットとしては、倒れてはならない人のためのジムにしようということで、40～70歳代の経営者の人たちを想定している。スポーツジムとしてはハイエンドモデルだろう。健康をつかむための個人的メソッドを提供したいと思っている。
- ・健康改善型コンディショニングジムを来年2月、フューレック7階に開業する。

【せとうち PEDAL Life 北村さん】

- ・行政、民間事業者、地域で暮らす人たちと共に自転車を活用したライフスタイルを提案したいと思っている。
- ・2016年に自転車利用促進法が成立した。災害時の機動性の確保、健康促進、渋滞緩和などいろんな要素で自転車はメリットがある。自転車はライフスタイルを彩るツールとして認識していくべきだ。
- ・福山市がしおまち海道を整備し、福山駅から芦田川沿いを走り、鞆の浦から境ガ浜まで行ける。メインルートが海沿いでしまなみ海道まで30キロの距離となっている。
- ・ビジョンとしては、自転車を活用したライフスタイル、ペダルライフを提案したい。
- ・活動理念としては、せとうち（エリア価値）、ペダル（自転車文化）、ライフ（生活）のうち2つ以上が重なる部分に力を注いでいく。
- ・ミッションとしては、サイクリングロード展開のための提案や知名度の向上などがある。
- ・活動事例として、「RIDE&FIND」でしおまち海道のPRと自転車体験、地元の魅力発見などを行っていた。宮内さんの自転車教室、子供向けイベント「ペダルキッズクルーズ」などもある

- ・福山をせとうちエリアの玄関口と認識してもらおう。駅前エリアにある様々なコンテンツ（飲食・宿泊等）と連携したい。駅前にレンタサイクル事業を展開しようと考えている。貸し出すのは e-BIKE という電動スポーツバイクである。電動自転車だがスポーティなデザインで、ヨーロッパでは e-BIKE の需要が高まっている。駅前を中心とした周遊性が高まることを期待している。駅前以外にもハブ基地が必要で、エフピコアリーナや田尻町に設定したいと考えている。

<意見交換>

(参加者)

- ・2つ提案がある。1つ目、駅前の南北と東西の交通が遮断されている。バスの停留所がど真ん中にあり、車も人も東西に抜けることができない。広島は東西南北をつなげて活性化している。それを福山でもできないか。バス、タクシー乗り場の上を歩道で埋めて人の流れを作ったらどうか。
- ・2つ目、お城の北側に蓮池がある。もともと取水のための池で芦田川までつながっている。今ある堰を取り除いて瀬戸内海まで出られるようにするとリバークルーズができる。お城の北側から、草戸千軒の発掘現場、鞆の浦、西は尾道や宮島へ、東は児島へといったルートができる。広島でも最近のリバーサイドにお店、クルーズの発着場所ができ、インバウンド効果が出てきている。

(北村さん)

- ・成瀬さんに質問だが、サイクリングロード沿線の建物やコンテンツにもストーリーがあって、沿線（線＝ライン）に意味がある。しおまち海道では鞆の浦の常夜燈のミニ版が市内各地にある。常夜燈を繋げていったら常石の方まで行ける。スポットスポットではなくてラインでのガイドは可能か。

(成瀬さん)

- ・以前しまなみ海道から話があった。1のガイドで4ルートとかも可能だ。問題は自転車で走りながら聴くのをどうするか。場所ごとに音声ガイドを作り、止まって景色を眺めながら聴く、ということを提案した。それに体験を含ませて、物語を巡るルートの再現コースとか展開できるかもしれない。

(参加者)

- ・独りで伏見町の情報発信をしている。公共交通機関へのお願いだ、福山駅に自転車を組み立てる場所がほしい。バス会社には、週末だけでもバスに自転車を積めるようにしてほしい。途中で疲れたらバスに積める仕組みがあると家族連れなどもっと気軽に旅行できるのではないかな。

- ・福山駅には新幹線「さくら」が停まる。外国人旅行客が持っているジャパン・レール・パスはさくら号に乗れる。もっと外国人に知名度を上げて福山にも降りてもらいたい。そのためには駅前にゲストハウスが増えたらいいのでは。広島には駅近くにあまりないので差別化できる。

(参加者)

- ・福山から宮島は遠すぎて無理がある。別の流れじゃないと組めないだろう。外国人が瀬戸内と考えるとき、宮島より最初にこちらを選ぶ流れを作っていくにはどうしたらいいか。大阪から見てもせとうちの起点が福山というイメージがないので、そこを強めていかないといけない。

(参加者)

- ・繊維産地継承プロジェクト委員会を立ち上げて活動している。産業ということでも成瀬さんにアイデアがあるか。産業ツーリズムという産業を切り口にしてコラボレーションして事業を進めていく可能性はどうか。

(成瀬さん)

- ・実は工場見学もやっている。その場所に来る意味があるものが大事だ。例えば、布の価値観が変わるぐらいのコンテンツがあれば、それを求めて日本人だけでなく海外からも来ると思う。日常で使っている当たり前のものが、そこに行ったことによって価値観が変わる。それを産業で伝えられたら面白いコンテンツになるのではないか。

(参加者)

- ・しおまちガイドをボランティアでずっと続けていくのは大変だと思って見ている。個人の若い旅行客などは人のガイドと関わる機会が少ないので、スマホアプリはいいなと思った。例えばアプリの収益を地元のガイドさんに落としていく仕組みはあるか。

(成瀬さん)

- ・那覇市と提携して市内の街歩きのガイドチームと一緒にガイドを作っている。課金したものを半分にしていくということをして、ガイドが使われたらそれだけ自治体に入っていく取り組みを実際やっている。自治体がガイドを雇っている形になる。
- ・京都などでは観光客が増えて人のガイドが対応出来なくなっている、特に海外の人への対応などが難しい。まちの取組として、無料でガイドをいろんなところに使っていくということも増えている。

(参加者)

- ・福山駅前には商業施設とマンションで市外から人は集まらない。活性化していくのであれば PEDAL Life さんのように地元の団体も巻き込んでイベントをやるのがよいと思う。最近、駅前でのイベントが増えているが、それが広がることでまちがさらに盛り上がる。駅の役目は、通過でなく起点となることが重要でサブスクリプション的な話もやりやすいのではないかな。

(参加者)

- ・広島は欧米の人がよく来るが滞在しないで福岡、大阪に行ってしまう傾向にある。滞在しない県というイメージだ。福山に魅力があれば広島のと福山に来て滞在してもらえないのではないかな。
- ・着物や琴の体験をさらに延長して、伏見町まで散歩して着たままご飯を食べられるとか、そのままホテルに帰って着替えてもいいとか。滞在することを目的とすれば活性化につながるかなと思う。

(参加者)

- ・成瀬さんに質問だが、人を集めることはまちづくりやツーリズムに繋がると思うが、今日の言葉で「物語を聞く」とか「旅は思索の助産婦である」とかあったが、成瀬さんの場合、人を集める発想はどんな形で出てくるのか。海外などに行かないといけないのか、それとも足元の感性を磨けばいいのかな。

(成瀬さん)

- ・その場所がオリジナルなものを持つことが大事だ。オリジナルなものを考えるときにオリジンに立ち返ることが大事。その土地のオリジナルなものを見つけるとき、歴史を見て学んでいる。この場所が生まれたきっかけ、できた時の物語がある。そこに立ちかえって理解する。当たり前と思うってしまうルーツとかオリジンにこそ大事なことが隠されていると思っている。

(参加者)

- ・文化的なイベントがあまりないと感じている。街中にギャラリーがない。学生の卒業制作の作品をアイネスに展示するので学生から少し PR させてほしい。

(参加者)

- ・2月の中旬に卒業制作の映像や3DCG、冊子などを展示する予定だ。3年生が授業で作成した映画も展示しようと企画中である。これを毎年の恒例として、メディア映像学科の宣伝と福山で人が集まればと思っている。来年度は公募展も一緒にやりたい。

【清水義次さん】

- 今日の話聞いて考え方がすごく大事だと思った。福山には物語がたくさん詰まっている。この場所は瀬戸内海から運河がつながり、船が入ってきていた。せつかく駅が城の真ん中にある。北部地域のテキスタイルロードめぐりも面白い。阿伏兎観音も面白い。嵐の日の阿伏兎観音の風景などは想像力を掻き立てられる。
- これからの観光の中身は変化している。ストーリーのある体験を求めている。オーディオガイドはいいのかもしれない。もしかしたら映像は邪魔かもしれないと思った。この後が大事だ。皆さん、ぜひまちにダイブしてほしい。福山の物語、魅力をぜひ体感してほしい。これ以外にない。

以上